研究テーマ「さがみはらの子どもの生活体験調査および分析」

研究員　倉田　秀文　（青野原小　　宮内　博史（横山小）
山﨑　真理　（大沢中）　　西川　直之（相模台中）
上原　ゆかり（元南大野小・相模川自然の村ビレッジ若あゆ）
渡辺　夕子　（総合学習センター）

○はじめに

今日の子どもたちを取り巻く環境は、少子高齢化、情報化、国際化などの社会変化によって大きく変化してきている。それに伴い、保護者の価値観やニーズが多様化してきている。従って、現在学校で起きている様々な課題に対応していくには、現在の子どもたちの実態を多面的にとらえてよく理解し、学校で果たす役割と家庭が果たす役割、そして地域が果たす役割を考えていく必要がある。今回の調査が、子どもたちのよりよい成長を支えていくために三者に何ができるのか、特に学校においてどのような教育活動が展開できるのかについて考えていくための資料となればと願っている。

この「さがみはらの子どもの生活体験調査」は、昭和６３年（１９８８年）から５年ごとに小学校３年生、小学校５年生、中学校２年生を対象に実施している。今回、平成２０年（２００８年）は第５回目となる。

前回（平成１５年　２００３年）の調査ではインターネットや携帯電話の利用についてや環境問題や福祉に関わる項目が加えられた。今回の調査は、前回、前々回の調査内容と比較考察するため、前回の調査項目をほとんど踏襲するとともに、人との関わりによる情緒体験や将来の自己像についての前向きな気持ちなども新たに加えた。

○調査研究の概要

１，調査の目的

日常生活の中で、子どもたちの生活体験にどのような変化があるのか、またどのような生活をしているのかを過去のデータと比較・分析する。そして、体験という側面から現在の子どもの素顔を明らかにするとともに、家庭や学校、地域における教育活動に役立てる資料とする。

○調査の内容

（１）調査項目および調査項目の基本構成

子どもたちの生活体験を広く把握するために次の項目を柱として調査を行った。

基本属性

①自然体験

②生活技能体験

③生死体験

④家庭での体験

⑤人間関係

⑥地域での体験

⑦情緒体験

⑧家での生活実態

⑨暮らしたいところ

⑩学校外での体験

⑪将来の自己像

⑫情報機器（携帯電話等）の活用

⑬省エネルギー・エコロジーに対する意識

⑭福祉活動に対する意識

⑮土・日曜日の過ごし方

（２）調査に関わる基本姿勢

今回のアンケート調査の基本姿勢は次の通りである。

・過去の調査と対比できるようにするため、アンケート項目の大きな変更は行わない。

・関連する質問項目を１６の分野に分類し、回答者が見やすいように工夫する。

○調査の方法

調査は、生活体験調査用紙（質問紙法による）を下に示す調査対象校に配布し、実施した。

○調査の時期と対象

１，調査の時期

平成２０年１１月１７日（月）～

１１月２１日（金）

２，調査の対象

学　校　名	小学３年	小学５年	計
小山小学校	１２４	１３０	２５４
横山小学校	１１２	１２１	２３３
大野台中央小学校	１４４	１２２	２６６
上鶴間小学校	１２５	１０９	２３４
相模台小学校	９１	９８	１８９
串川小学校	５４	５９	１１３
小学校合計	６５０	６３９	１２８９
学　校　名			中学２年
大沢中学校			１２９
上溝南中学校			１９９
大野台中学校			１２９
谷口中学校			１８０
若草中学校			８５
中野中学校			１２０
中学校合計			８４２
総　　計			２１３１